



## 学校の教育目標

いのちを大切にし 共に輝き生きていこう  
 かしく……主体的に学び、考える力、表現する力を高めようとする子  
 なかよく……認め合い、支え合い、協働して行動しようとする子  
 たくましく……心と体の健康を考え、進んで鍛えようとする子

## 児童の実態

- ・素直で、人と関わることが好きな児童が多い。
- ・「自分のことが好き」と肯定的に答えた児童が、49%である。(令和6年5月)
- ・人権に関する知的理解が不十分である。

## 学校の人権教育目標

多様性を尊重し、権利と義務、自由と責任について認識を深めるとともに、人権の重要性を理解し、態度と行動力を養う。

## 研究主題

**自分のことも相手のことも大切にできる児童の育成**  
 ～自尊感情の醸成と話合いの充実を図るための指導の工夫～

## 目指す児童像

低学年…自分は周りから理解されていると感じ、自他のよさに気付いている児童  
 中学年…自分は周りから必要とされていると感じ、自他のよさを認め合える児童  
 高学年…自分はみんなの役に立っていると感じ、自他の違いを認め合える児童

## 研究仮説

自尊感情を醸成する取組を意図的・計画的に実践し、様々な教育活動における話合いの充実を図るとともに、人権を常に意識できる環境の中で、人権の意義・内容や重要性について理解できる指導を行うことで、自分も他の人も大切にできる児童が育つだろう。

### 普遍的な視点からの取組

人権教育の視点、人権教育に関わる留意点を明確にした授業実践

「特別活動」「特別の教科 道徳」

### 個別的な視点からの取組

人権課題に関わる差別意識の解消を目指した授業実践

「女性」「子供」「高齢者」「障害者」  
 「同和問題」(部落差別)  
 「インターネットによる人権侵害」

### 話合いの充実のための工夫

- ・話合いの目的の明確化
- ・ファシリテーターとしての研修・実践

### 自尊感情を醸成するための工夫

- ・自己有用感を高める指導の充実
- ・自己有用感を実感できる場の設定
- ・「自尊感情測定尺度【東京都版】」の活用

### 人権について関心を高めるための日常的な取組

- ・掲示物による研究主題の周知
- ・研究主題と関連付けた学級目標の設定
- ・人権朝会、人権週間の実施
- ・「人権がもっとわかる本」の活用
- ・言葉遣いに関する指導
- ・いじめ総合対策【第3次】の活用

## 普遍的な視点からの取組

### 第5学年 特別活動 学級活動（1）

● **議題** 笑顔が広がる春パーティーをしよう

● **本時のねらい**

春生まれの友達をお祝いする会を通して、学級全体が笑顔になれるような工夫を一人一人が考え、話し合い活動を通して意見を共有しながら合意形成を図ることができる。

● **人権教育の視点**

自分の考えを相手に受け入れられたり相手の考えを受け止められたりする経験を通して、自分は学級の中の大切な一員であるという自尊感情の醸成を図る。

● **授業内容**

学級活動（1）「笑顔が広がる春パーティーをしよう」という議題で学級会を行う。みんなの笑顔が広がりそうな具体的な取組とは何かを考え、学級の一人一人のことを考えながら合意形成を図る。



### 第3学年 特別活動 学級活動（1）

● **議題** 一人一人のよいところを見付けるプロジェクトを考えよう

● **本時のねらい**

一人一人のよいところを見付けるためにはどうしたらよいかという話し合いを通して、問題意識をもち、自分の事として学級をよりよくするための方法を考えることができる。

● **人権教育の視点**

自分の考えを相手に受け入れられたり相手の考えを受け止めたりする経験を通して、他の人の立場に立って必要なことを考えたり、考えや気持ちなどを想像したりしながら、共感的に理解する力を育む。

● **授業内容**

事前に「クラス目標に向かって取り組んでいるか」についてアンケートを行い、学級目標にある「一人一人のよいところを見付ける」ことの達成度が低いという傾向をつかむ。そこから、自分の事としてどのような取組をしていけばよいか考え、話し合い活動を行う。また、その取組は全員が無理なくできる方法を検討する。



### 第2学年 特別の教科 道徳

● **主題名** 正しいことをすすんで A 善悪の判断、自律、自由と責任

● **教材名** 「おれたものさし」

● **本時のねらい**

よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことをすすんで行おうとする判断力を育てる。

● **人権教育の視点**

自ら正しいと信じてるところに従って、誠実かつ謙虚に行動することの大切さを考えることを通して、物事の善悪についての的確に判断し、主体的に行動すること、自由を大切にすること、それに伴う自律性や責任を自覚しようとする意欲や態度を育む。

● **授業内容**

「おれたものさし」の教材を通して、自分の過ちを人のせいにするという、登場人物「のぼる」の不正に対して、勇気を出して指摘した「ぼく」の気持ちを考える。「ぼく」が何と云ってもものさしを渡したか、「ぼく」になりきって発表することで、より具体的に気持ちを表現できるようにする。また、ものさしを受け取ってもらえた「ぼく」の気持ちの変化を考え、正しく行動することのよさを感じられるようにする。



## 第1学年 特別活動 学級活動（2）

●**題材名** どのようにつたえたらよいか

●**本時のねらい**

互いのよさを見付け、違いを尊重し合い、仲良くしたり信頼し合ったりして生活しようとする意欲を高める。

●**人権教育の視点**

得意、不得意なことに関わらず、互いを認め合い、助け合っていくことの大切さに気付く活動を通して、よりよい人間関係を形成しようとする態度を育む。

●**授業内容**

今までの学習を振り返り、思いを伝え合うことの大切さや、伝えるための方法を確認する。

その後、相手の気持ちを考えずに自分の思いを伝え続ける「犬」、困っているが伝えられない「猫」、客観的に様子を見た「うさぎ」の立場でロールプレイを行うことで、互いの気持ちを尊重しながら自分の気持ちを伝えることの大切さに気付くようにする。



## 個別的な視点からの取組

### 第6学年 特別の教科 道徳 【人権課題「子供」】

●**主題名** 誰とでも仲良く C 公正、公平、社会正義

●**教材名** 「ユリのうしろ姿」

●**本時のねらい**

誰に対しても偏見をもつことや差別をすることなく、公正、公平な態度で接し、正義の実現に努めようとする態度を育てる。

●**人権教育の視点**

いじめは、誰にでも起こり得るものであることを認識するとともに、いじめの理不尽さを理解させることを通して、いじめをしない、いじめを見過ごさないという態度を育む。

●**授業内容**

導入では、いじめに対するイメージをペアで話し合い、発表する。「ユリのうしろ姿」を読み、今まで「ユリ」にしてきたことの重大さに気付く「私」の気持ちを考え、グループで伝え合う。ユリの心情を想像することで、正義とは何かを考え、自分自身の問題であることや公正・公平に行動することの大切さについて全体で話し合う。



### 第5学年 特別の教科 道徳 【人権課題「子供」】

●**主題名** 誰に対しても公平に C 公正、公平、社会正義

●**教材名** 「残されたボール」

●**本時のねらい**

誰に対しても偏見をもつことや差別をすることなく、公正、公平な態度で接し、正義の実現に努めようとする態度を育てる。

●**人権教育の視点**

自身の身の回りにおいて、何気ないきっかけからいじめが起こり得ることや、いじめの理不尽さについて考える活動を通して、いじめをしない、いじめを見過ごさないという態度を育てる。

●**授業内容**

導入では、休み時間に遊んでいるボールや道具の片付けの場面を想起する。「残されたボール」を読み、迷ったり見て見ぬふりをしたりする主人公の心情について考える。そして、周囲の雰囲気や人間関係に流されず、公正、公平に行動することの大切さについて話し合う。



## 第4学年 特別活動 学級活動(2) 【人権課題「子供」】

● **題材名** いじめのない、楽しい学級について考えよう

● **本時のねらい**

いじめが起こったらどのように行動するかを考えたり、いじめのない学級にするための具体的な行動を考えたりすることを通して、互いに協力し合って温かな人間関係を形成しようとする意欲を高める。

● **人権教育の視点**

どのような行為がいじめに該当するのかを考えることや、いじめが起こらないように、そしていじめが起こったらどのように行動するか考える活動を通して、いじめをしない、させない、見過ごさない、見て見ぬ振りをしない態度を育てる。

● **授業内容**

いじめ防止教材「STOP! いじめ あなたは大丈夫?」の動画を視聴し、いじめをした側といじめをされた側の立場から気付いたことを発表する。その後、いじめを起こさないようにするにはどうしたらよいか、いじめが起こったらどうしたらよいかを話し合う。



## 第6学年 社会 【人権課題「同和問題」(部落差別)】

● **単元名** 町人の文化と新しい学問

● **本時の目標**

杉田玄白らがどのようにして「解体新書」を完成させたかを知り、新しい学問が社会に与えた影響について理解する。

● **人権教育の視点**

国学や蘭学等に関わる人物などについて調べる活動を通して、差別されてきた人々による腑分けなどの優れた技術が、医学の発展など江戸時代の社会の発展を支えたことに気付かせるとともに、人権課題「同和問題」(部落差別)に関する歴史について理解を深めさせる。

● **授業内容**

中国の医学書の人体図と「解体新書」の人体図から、東洋と西洋の医学の違いを見付け、田玄白らが「解体新書」を完成させたのかという問いをもつ。その後、腑分けの様子や「解体新書」を出版するまでの苦労や思いを資料から調べていく。調べたことを共有した後で、当時、差別されていた人々の技術によって「解体新書」が完成したことや、それをきっかけに、新しい学問が発展していったことをまとめる。



## 第4学年 総合的な学習の時間 【人権課題「高齢者」】

● **単元名**

みんなが笑顔で暮らせる町を目指して ～高齢者とのかわり～

● **本時の目標**

高齢者疑似体験の感想を共有し、高齢者についての学習課題を考えることができる。

● **人権教育の視点**

高齢者の生活について考えたり、福祉に関する取組を調べたりする活動を通して、高齢化社会の現状と課題を理解させるとともに、高齢者の人権を守るために、自分たちができることを考え、すすんで役に立とうとする実践意欲や態度を育てる。

● **授業内容**

前時に行った高齢者疑似体験の感想を共有し、疑問に思ったことや推測したことをグループで伝え合う。その後、学級全体で考えていきたい課題をグループごとに付箋に書き、全体で交流する。日常生活の中での困難さを予想した考え等を整理し、高齢者に関する課題を設定する。



## 自尊感情を醸成するための工夫

### ● 自己有用感を高める指導の工夫

〇〇さんが疑問を言ってくれたおかげだね。

〇〇さんの意見でみんなの考えが深まったね。

教員の声掛け

〇〇さんの言いたいことを「こういうことかな」と理解しようとしていたね。

〇〇さんは、少し待つと言えるかもしれないよって、素敵な声掛けだったね。

まずは授業の中で、教員が話を聞いている児童をよく見て、関わり合いを見取るようにしました。そして、授業の中で児童の行動を価値付けるのはもちろんのこと、相手を理解しようとしたり、配慮したりするなどの関わりをしていた児童の行動も価値付けました。そのことで、いろいろな形で「自分は人の役に立っている」という自己有用感を高められるようにしました。

### ● 自尊感情測定尺度の活用



東京都教職員研修センター  
【自尊感情測定尺度（東京都版）】  
児童・生徒用 自己評価シート。

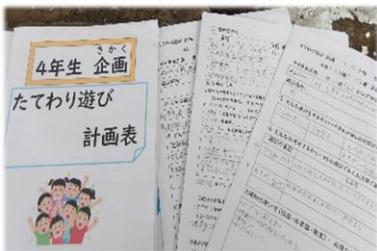


自尊感情測定尺度【東京都版】を4～6年生に実施しました。自尊感情が低い結果が出た児童に対して具体的な手だてを協議する時間を設けました。自尊感情測定尺度を用いることで、個々の児童に対する手だてを考える際の視点が明確になりました。

**自尊感情とは、自分のできないことなどすべての要素を包括した意味での「自分」を他者とのかかわり合いを通してかけがえない存在、価値ある存在として捉える気持ち**（東京都教職員研修センター）

前田小学校では、**他者とのかかわり合い**の中で、自分は「人の役に立てた」「必要とされた」等の「**自己有用感**」を高めることに着目

### ● 自己有用感を実感できる場の設定



行事がんばりカード（年度）	学年	月	日
学年や学期のめあて			
がんばることやめあて			
ふりかえり			
① がんばったことやできたこと、がんばりました。			
② がんばったことへの反省や学び。			
③ みんなの役にたつこと、みんなの役にたてたことなど。			

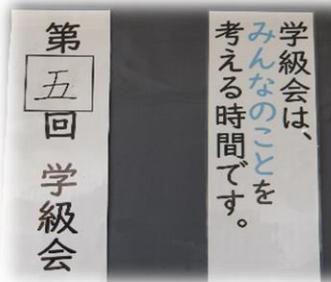
月に1回行う縦割り班活動の遊びの企画を、6年生だけでなく1～5年生も行うようにし、全児童が人の役に立てるような場を設定しました。

また、人の役に立ったことを、より自分自身で実感できるようにするために、キャリアパスポートの内容や書く時の指導を見直したり、5・6年生による委員会活動を全児童の前で賞賛する機会を多く設定したりしました。

「みんなをまとめるのが大変だったけれど、喜んでくれてよかった」等、人の役に立てた喜びを実感できる児童の姿が多く見られました。

## 話し合いの充実のための工夫

### ● 話し合いの目的の明確化



前田小学校が考える、人権教育における話し合いの意義

- 自尊感情の醸成につながる
- 相手を大切にすることにつながる
- みんなのことを考えることにつながる

「自分のことも相手のことも大切にすること、話し合いの目的がどのように結び付いているのかを、教員も児童も意識できるようにしました。特に学級会については、「学級会みんなのことを考える時間です」と掲示することを、校内で統一しました。話し合いの目的が明確になることで、互いを尊重しながら話し合い活動を行うことができました。

### ● ファシリテーターとしての教員の在り方についての研修及び実践



ファシリテーターとしての教員の在り方について研修を行いました。児童同士が「意見や考えを受け入れたい受け入れてもらいたいようになるにはどうしたらよいか」等を議論し、実践することを繰り返しました。それぞれの学年、教科等に応じて話し合いをファシリテートする方法等について、理解を深めることができました。

# 人権について関心を高めるための日常的な取組

## ● 掲示物による研究主題の周知



『自分のことを大切にしよう』とは、どのようなことなのだろう。」児童に具体的なイメージをもってほしいという思いのもと、それぞれの教員が考える「自分のことを大切にしよう」の掲示物を作成しました。児童は、身近な大人である教員の考えに、熱心に見入っていました。

## ● 言葉遣いに関する指導



「自分のことも相手のことも大切にしよう」言葉遣いの指導を、朝会や掲示物を通して行いました。「友達との会話場面」「年上の人との会話場面」など、相手を意識した会話を想定しました。児童の意見や考えを募り、掲示の中に内容を載せるなど工夫をすることで、よりよい言葉遣いについて、児童が自分の事として問題を捉えることができました。

## ● 「人権がもっとわかる本」の活用



東京都人権啓発センター  
「人権がもっとわかる本」

世界人権週間（12月4日～12月10日）に、東京都人権啓発センター「人権がもっとわかる本」を読んだり、法務省の人権啓発ビデオを視聴したりして、人権について考える時間を設定しました。人権についての歴史などを知るよい機会となりました。

## ● 「東京都子ども基本条例」に関するワークショップの受講



4月に、5・6年生が、「東京都子ども基本条例」に関する東京都出張ワークショップを受講しました。「子どもの権利条約」と「東京都子ども基本条例」の基本的な内容を理解し、自他の権利について尊重し合う大切さを学ぶことができました。

## ● 人権朝会の実施



人権朝会では、「人権とは何か」を示すとともに、互いの人権を尊重するために、「自分のことも相手のことも大切にしよう」ということを確認しました。その後も、行事や日々の授業の中で、「自分のことも相手のことも大切にしよう」ということを、繰り返し伝えることで、児童の人権に対する意識の向上につながりました。

## ● 研究主題と関連付けた学級目標の設定



学級目標を決める際には、児童の思いと、「自分のことも相手のことも大切にしよう」ということを関連付けて決めました。また、保護者に「こんな子になってほしい」という願いをアンケート調査し、結果を児童に示すようにしました。児童は、様々な思いや願いと「自分のことも相手のことも大切にしよう」ことがつながっていることを、常に意識できるようになりました。

## ● 「いじめ総合対策【第3次】」の活用



東京都教育委員会  
いじめ総合対策【第3次】  
いじめ総合対策【子供版】

本校の重点課題である「人権課題【子供】」の指導のために、令和7年6月に策定された「いじめ総合対策【子供版】（デジタルブック版）」を児童に示しました。また、「いじめ総合対策【第3次】下巻（実践プログラム編）」をもとに、授業実践を行いました。

## ● 人権について関心を高めるための委員会活動

「個別の人権課題に関する紹介」や「自尊感情を高める」ための活動、「自分のことも相手のことも大切にしよう」ための活動を、各委員会にて企画・実施しました。児童が主体的に活動に取り組むことで、人権に関する課題を自分の事として捉えられるようになりました。

- 代表委員会…いじめ防止のスローガンづくり、劇の発表、学校をよりよくするための意見箱の設置
- 保健・給食委員会…アイヌの人々の食生活の紹介
- 環境美化委員会…人権啓発ポスターの作成・掲示
- 運動委員会…デフリンピックの紹介
- 放送委員会…「ありがとう」の紹介、得意なことの紹介
- 図書委員会…人権に関する本の紹介・読み聞かせ
- 集会委員会…全校児童が楽しめる集会の企画・実施

研究主題

# 自分のことも相手のことも

# 大切にできる児童の育成

～自尊感情の醸成と話合いの充実を図るための指導の工夫～



## はじめに

校長 樺山 雄三

本校は、令和6・7年度に東京都教育委員会より人権尊重教育推進校の指定を受け、人権教育の充実に努めてきました。

研究主題を「自分のことも相手のことも大切にできる児童の育成」、副主題を「自尊感情の醸成と話合いの充実を図るための指導の工夫」とし、授業研究や教員研修、校内での様々な取組を計画的かつ継続的に進めてきました。

本校は、学校経営方針に掲げる「人権尊重教育を推進し、児童一人一人がよさを発揮し、主体的・協働的・創造的に活動する学校」の実現を目指しております。児童が個性を伸ばし、話合い活動を通じて他者を認め、互いに高め合う中で、人権についての理解を深め、自分のことも相手のことも大切にすることを重視してきました。

研究は、まだ道半ばではありますが、2年間の取組を通して得られた成果と課題を本リーフレットにまとめました。御高覧のうえ、今後のよりよい実践へとつなげていくために、御指導・御助言を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、2年間にわたり御指導くださいました國學院大學教授 杉田 洋 先生をはじめ、多くの講師の先生方、そして御支援くださいました東京都教育委員会並びにあきる野市教育委員会の皆様に、心より感謝申し上げます。

皆様からいただいた御助言を糧として、今後も人権教育の一層の充実と発展に努めていきます。

## あきる野市立前田小学校



## 成果

- 自尊感情を醸成する取組を意図的・計画的に実践し、様々な教育活動において話合いの充実を図ったことで、アンケート調査において「自分のことが好き」と肯定的に答えた児童が増加し、全体の8割を超えたこと。
- 様々な思いや経験等をもつ人へ配慮し、互いのよさや考えを認め合うことを意識しながら話し合う姿が見られるようになったこと。
- 人権について関心を高めるための日常的な取組を行ったことで、様々な場面において「人権について考えることがある」と答えた児童が増加し、全体の8割を超えたこと。
- 「人権教育の意識の高まった」「人権教育について理解を深めた」についてアンケートを行ったところ、全教職員が肯定的な回答になったこと。
- 自尊感情を高めるための取組を実践していく中で、個別の支援の必要性にも気付き、自尊感情が低い児童一人一人に対する個別支援について、全教員で検討することができたこと。



## 課題

- 自分の人権を守り、他者の人権を守ろうとするための実践行動を常に意識できるよう、引き続き人権教育に取り組んでいくこと。
- 学校における児童一人一人の人権が配慮されているのかという点について、日常の中から広く捉え、確認していくことが必要であること。
- 自尊感情を高めるための個別支援の在り方を更に研究し、今後も継続していくこと。
- 人権に関わる普遍的な概念を念頭に置いた、各教科等の指導の在り方を、更に具体化させていくこと。



## 御指導いただいた先生方

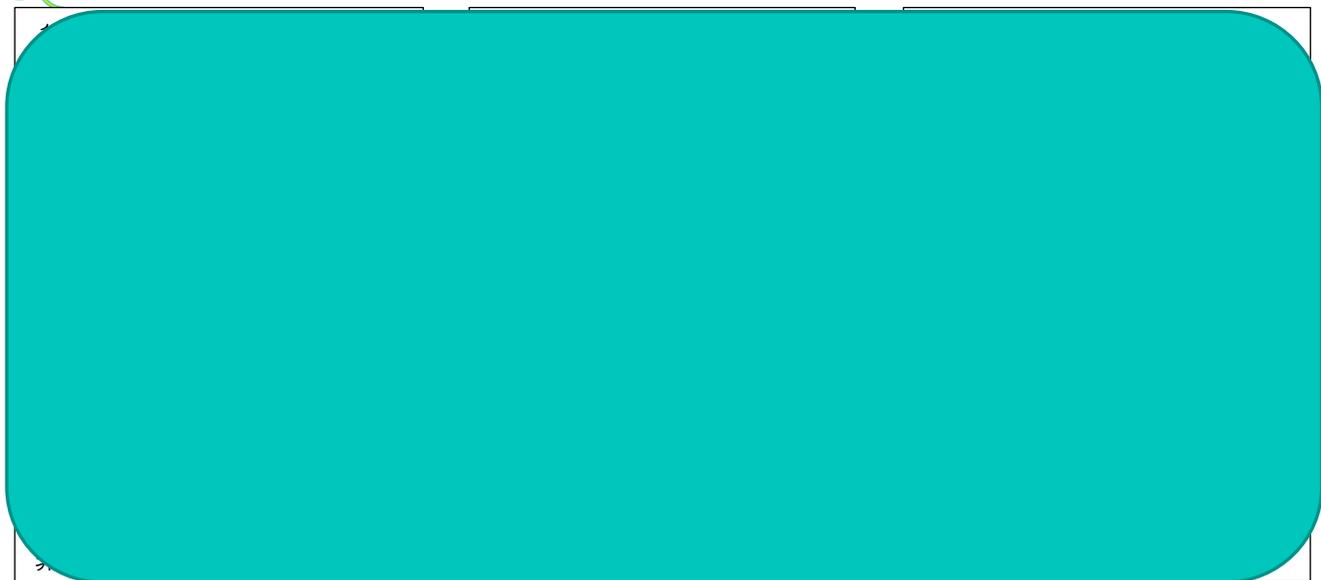
前文部科学省初等中等教育局視学官 國學院大學人間開発部 教授  
 元東京都道徳教育研究会会長 日本道徳科教育学会 理事  
 東京都多摩教育事務所 指導課 教育専門員  
 あきる野市立五日市小学校 校長  
 羽村市教育委員会 生涯学習部 統括指導主事  
 東京都教職員研修センター研修部教育開発課 指導主事  
 公益財団法人 東京都人権啓発センター 専門員

杉田 洋 先生  
 後藤 忠 先生  
 辻 泰成 先生  
 芝田 智昭 先生  
 佐生 秀之 先生  
 安納 剛 先生  
 田村 鮎美 先生



## 研究に携わった教職員

校長 縦山 雄三



◎研究主任 ○研究推進委員 ◇主幹教諭